

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年 国語 212人 社会 213人 数学 213人

理科 213人 英語 213人

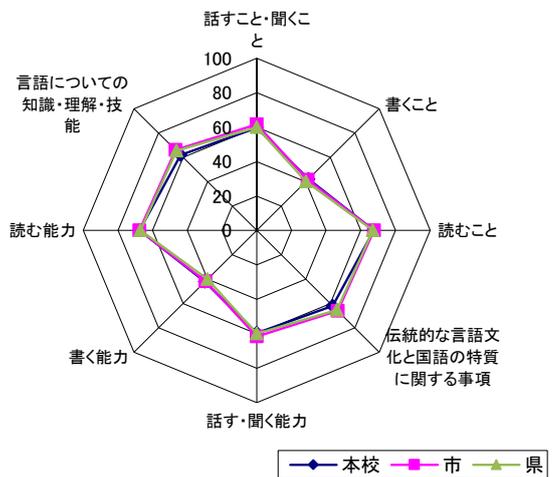
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	59.6	61.6	59.9
	書くこと	42.2	41.7	40.1
	読むこと	67.5	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.0	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	59.6	61.6	59.9
	書く能力	42.2	41.7	40.1
	読む能力	67.5	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	62.0	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

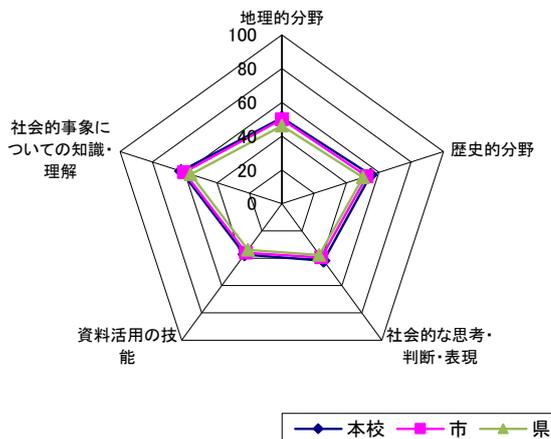
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●県平均より0.3ポイント、市平均より2ポイント下回っている。	・事実と意見との関係に注意して話を構成する設問では県平均、市平均よりも下回っている。必要に応じて質問しながら話を聞き取る基礎問題の設問でも県平均、市平均を下回った。
書くこと	○県平均よりも2.1ポイント、市平均よりも0.5ポイント上回っている。	・カードを基に、考えの根拠を明確にして鑑賞文を書く設問は県平均、市平均よりも5パーセント以上の差をつけ、正答率が高い。
読むこと	●県平均よりも0.5ポイント高く、市平均よりも0.1ポイント低い。	・説明文の内容の理解は、県平均、市平均のどちらとも上回っている。文学作品の内容の理解は県平均は上回っているが、市平均は下回っている。描写や会話文を基に、登場人物の心情の変化をとらえる問題は無回答が30.7パーセントだった。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●県平均よりも3.4パーセント低く、市平均よりも4.1パーセント低かった。	・言語についての知識理解技能の達成率は県平均、市平均ともに10パーセント以上の差がついて下回っている。新出漢字の練習および漢字テストを定期的に行い、力をつけさせていく。言語事項に関しては、繰り返しの指導が必要である。また、知識を活用できるよう短文等文脈の中での指導を重視していく。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	50.9	50.0	46.2
	歴史的分野	55.0	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	41.8	39.4	37.6
	資料活用の技能	37.3	35.9	33.8
	社会的事象についての知識・理解	62.3	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

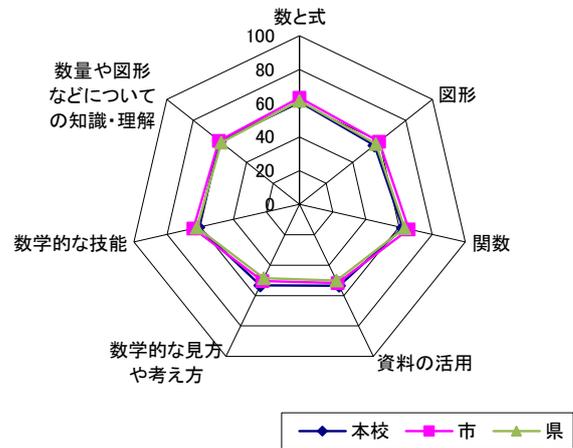
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○平均正答率が50.9ポイントと、市・県の平均を上回った。</p> <p>○「世界各地の人々の生活と環境」や「世界の諸地域(アジア)」に関する内容では、県平均を6ポイント以上上回った。</p> <p>●「世界の諸地域(オセアニア)」の内容については、35.6ポイントと宇都宮の平均を2ポイント下回っている。</p> <p>●変化の原因を考察したり、貿易の変化を読み取るような記述式の正答率が低い。</p>	<p>・統計資料や、主題図、写真、映像資料など様々な資料を活用しながら、そこから読み取れる事象や関連する事象などを考察させるような学習活動を多く取り入れる。</p> <p>・ワークシートを活用し、自ら課題を解決する学習活動を行う。</p> <p>・オセアニア州については、年度末に学習する内容のため学習内容の定着が不十分であった。復習プリントなどを実施し、学習な世の定着を図りたい。</p>
歴史的分野	<p>○平均正答率が55.0ポイントと、市・県の平均を上回った。</p> <p>○「歴史のとらえ方」「縄文時代～古墳時代」「鎌倉時代～室町時代」の内容について県の平均を5ポイント以上上回った。</p> <p>●「飛鳥時代～平安時代」の内容については、宇都宮の平均を0.7ポイント下回った。</p> <p>●出土品から縄文時代について考察したり、税負担から逃れるためにとった方法を資料から考察するような記述式の正答率が低い。</p>	<p>・年表や文書資料、写真、映像資料などを活用し、各時代の特色を考察したり、時代ごとの変化を考察させるような学習活動を多く取り入れる。</p> <p>・ワークシートを活用し、自ら課題を解決する学習活動を行う。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	60.8	63.3	61.5
	図形	56.3	59.8	57.4
	関数	62.3	65.9	63.4
	資料の活用	53.5	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	53.2	50.4	48.5
	数学的な技能	61.0	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	60.0	60.6	58.9



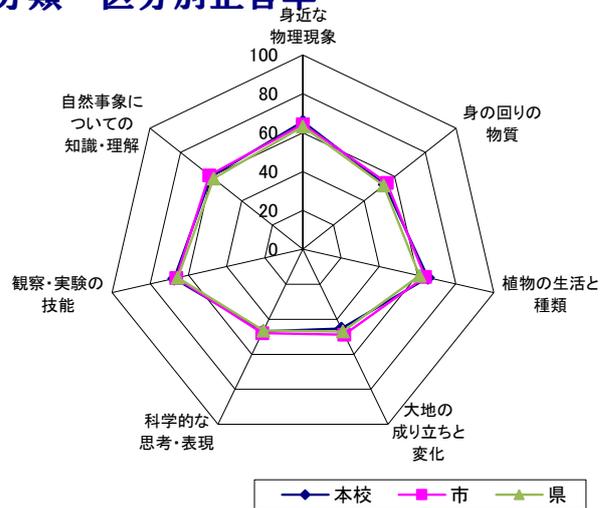
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
		今後の指導の重点
数と式	○不等式の数量関係については、正答率80%以上となっており、理解が定着している。 ●一次式の乗除、分配法則の計算の正答率が30%であり、市の平均よりも15%も低い。	・授業中に計算練習などを取り入れながら、基礎的な計算力の確実な定着を図る。
図形	○立体の投影図と見取図の関係については、正答率が97%となっており、空間図形への理解が定着している。 ●円柱の側面の横の長さを求める問題の正答率は30%以下となっており、市の平均よりも7%以上低い。	・授業中に基本的な数量を求める練習問題を取り入れながら、基本的な知識や計算の定着を図る。
関数	○関数における活用問題の正答率は、県の平均正答率を上回っている。 ●比例のグラフから式を求める問題では、正答率が40%以下となり、市の平均よりも7%以上低い。	・1次関数を学ぶにあたって、比例、反比例の式やグラフの復習も取り入れ、基本的な知識や計算の定着を図る。
資料の活用	○資料の活用の問題では、県、市の平均よりもともに上回っている。 ●相対度数を求める問題では、市の平均よりも9%低くなっている。	・課題テストなどを実施し、学習内容の確実な定着を図る。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	65.7	64.3	63.2
	身の回りの物質	53.4	54.8	52.8
	植物の生活と種類	65.5	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	45.3	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	46.9	48.0	46.4
	観察・実験の技能	67.5	66.4	65.6
	自然現象についての知識・理解	60.1	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

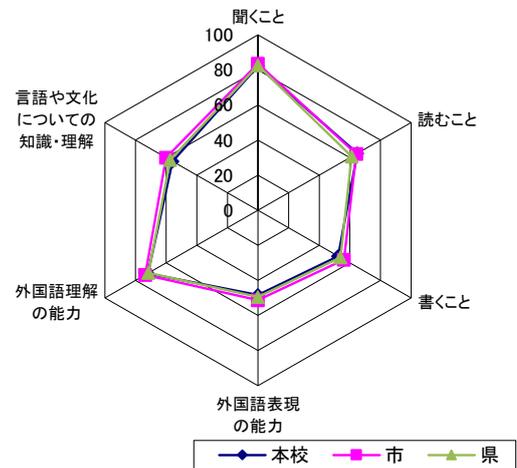
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○市の平均より1.4ポイント、県の平均より2.5ポイント上回っていた。 ○「ものが見えるときの光の進み方がわかる」では、市の平均を7.1ポイント上回っていた。 ●「実験結果から予想の正否を判断し、その理由を説明する」では市の平均を5.0ポイント下回っていた。	・実験の際には予想を立てさせ、結果が出た後に反映させるとともに、なぜそのような結果が得られたのかよく考察を行わせる。
身の回りの物質	○「水が氷に変化したときの粒子のようすが分かる」、「水が氷に変化したときの質量の変化が分かる」では、それぞれ県や市の平均を5ポイント以上上回っている。 ●「グラフから析出する固体の質量を選び、理由を説明する」では市の平均を6.4ポイント下回っていた。	・グラフやデータから読み取れる内容を明確にし、表現することを継続的に行わせる。
植物の生活と種類	○「結果の比較から、葉の裏側からの蒸散量を計算する」では、市の平均を5.7ポイント上回っていた。 ●「葉が重なり合わないようになっている理由を説明する」では市の平均を5.0ポイント下回っていた。	・植物のからだのつくりについて、そのつくりの理由まであわせて説明を行い、理解の向上を図る。
大地の成り立ちと変化	○「観察の結果や表を基に雲仙普賢岳の形を推測する」では市の平均、県の平均よりそれぞれ3.4、0.6ポイント上回っていた。 ●「初期微動に続いて起こるゆれの名称が分かる」では、市の平均を6.3ポイント下回っていた。	・全体的に地学分野では課題が多く見られている。地震の仕組み、地層のつくりなど、実験・観察が行いにくい單元においては、デジタルコンテンツや映像資料などを有効に活用し、理解の向上を図る。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	82.2	83.6	82.6
	読むこと	64.9	64.2	61.2
	書くこと	52.4	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	48.3	51.2	49.4
	外国語理解の能力	71.9	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	55.9	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○「対話文の聞き取り」の正答率は89.0%であり、A-D層の差が14.8と最も少ない。</p> <p>●本校の平均正答率は市の平均を1.4ポイント、県の平均を0.4ポイント下回っている。A-D層の差が最も少ない領域である。</p> <p>●「単文の聞き取り」の正答率は市の平均を2.4ポイント下回っている。</p>	<p>・単元末テストや定期テストのリスニング問題のスク립トに基づいて、問題の見直しを授業内で行い、また、家庭学習で行う方法も指導する。</p> <p>・リスニング問題中のキーワードやキーセンテンスを聞くことができるよう細かい部分まで授業内で指導していく。</p> <p>・まず単文の聞き取る力を高めてから、繋がりのある文(対話文、応答文)に移っていく順序性を注意しながら、指導していく。</p>
読むこと	<p>○本校の平均正答率は市の平均を0.7ポイント、県の平均を3.7ポイント上回っている。</p> <p>○「まとまりのある英語の読み取り」は市の平均と同等である。</p> <p>●「文法の理解」は市の平均を5.5ポイント下回っている。また、全ての項目のA-D層の差が大きくなってしまっている。</p>	<p>・butの用法や一般動詞の過去形について、復習を繰り返していく。また、代名詞の格については、基本的に前置詞の後では目的格になることを板書に工夫を重ね指導していく。</p>
書くこと	<p>●本校の平均正答率は市の平均を3.8ポイント、県の平均を1.4ポイント下回っている。A-D層の差も73.5と最も大きい。</p> <p>●「場面や条件に応じた英作文」は市の平均を6.9ポイント下回っている。D層の平均が0ポイントとなってしまう。</p>	<p>・書くことでは、教科書の基本表現を自主学習ノートに繰り返し書かせる。英作文はワークの問題を繰り返し取り組ませ、問題形式に慣れさせる。また、ALTを活用し、添削した後にもう一度修正して書かせ、正しい表現を書く力を身につけさせる。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「早寝早起きを心がけている」と回答した生徒の割合は73.7%で、市の平均より6.3ポイント高い。今後も、基本的な生活習慣の定着を図り、健康で安全な生活を送る能力と態度を育てたい。

○「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合は81.2%で、市の平均より5.9ポイント高く、生徒の発達段階に応じた組織的・系統的に進めているキャリア教育の成果が表れている。生徒が自分の特性を理解し、進路の情報を確かめながら将来を設計し、実現に向けて努力する態度を育てていきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した生徒の割合は62.4%で、市の平均より6.3ポイント高い。今後も、各教科や道徳、学級活動等、様々な場面において自分を見つめる場や機会を設定して自己理解を進めるとともに、生徒の長所や進歩、頑張りなどを認め、自己肯定感を高めるような指導を推進していきたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と回答した生徒の割合は68.1%で、市の平均より6.5ポイント高い。学習指導の重点目標でもある「自己の課題を意識し、主体的に学び取る態度の育成」を達成するため、学ぶ意欲を高める魅力ある授業の実践に取り組んでいきたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した生徒の割合は83.6%で、市の平均より9.0ポイント高い。生徒のほとんどがチャイムの5分前着席ができており、落ち着いた雰囲気の中で学習できている。また、グループ活動でもお互いに教え合うなど、比較的活発な授業展開もなされている。これからも、学級を「学びに向かう集団」として、基本的な学習態度を定着させる指導を充実させていきたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と回答した生徒の割合は50.7%で、市の平均より7.4ポイント低い。また「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」と回答した生徒の割合は66.7%で、市の平均より8.8ポイント低い。基礎・基本の確実な定着のため、授業のねらいを明確化し、振り返りの時間を確保するような指導に努めていきたい。更に、話の聞き方や発表の仕方、ノートの取り方などの学習技能の定着も図っていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化	・ねらい提示と振り返りを行う。	・学習内容が明確で理解し易くなっている。
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	・落ち着いて学習に取り組んでいる。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	・課題等の提出率は向上している。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・考察を必要とする問題や、記述式の問題への対応が課題	・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の実践	・全職員による公開授業と授業検討の実施